

東京 IPO 特別コラム

2017年1月30日 Vol.66

好調なスタートを切った2017年IPO相場

今年もシャノン(3976・マザーズ)を皮切りにして先週27日よりIPO相場がスタートしました。例年は2月からとなるのですが、今年は1カ月繰り上げてのスタートです。結局初日は売り9万3100株に対して買い物が56万9800株となり買い物が殺到したため、3450円の買い気配で終え、値が付かない始末。相当に過熱気味な幕開けになってしまいました。同社はマーケティング自動化ツールの提供を行うほか、クラウド製品である統合型マーケティング支援サービス「シャノンマーケティングプラットフォーム」を開発・販売しています。このほか、関連するマーケティングコンサルティングサービスを提供。今10月期の予想売上は17億89百万円とまだ規模は小さいものの、企業の業務効率化を実現するシステムへの関心は高く、いきなり時価総額が46億円を上回る気配の株価となっています。

これは株式市場全体がトランプ相場で需給が良くなり、行き場を失ったリスクマネーがIPO市場にもなだれ込んだためではないかと思われます。こうしたやや冷静さを失ったような展開は昨年のIPO第1号でも見られました。2016年2月にマザーズ市場にIPOした、はてな(3930)が公開価格800円に対して初値が3025円と3.8倍の価格で値をつけています。その後のはてな株は高値3355円から直近の安値まで1年近く調整が続いてきました。はてなと同様にシャノン株もまさに好需給の下でポジティブな評価が先行しての株価形成が行われようとしているように思われますが果たして上場した後の展開はどうなりますか。

この後に続くのは2月10日の安江工務店(1439・JQ・住宅のリノベーション)、16日の日宣(6543・JQ・広告セールスプロモーション)、23日はユナイテッド&コレクティブ(3557・マザーズ・居酒屋など飲食)、フュージョン(3977・アンビシャス・ダイレクトマーケティング)、レノバ(9519・マザーズ・再生可能エネルギー事業)の3社がまとめて登場します。これらの銘柄の中にはすこぶる魅力的な企業があるかと言えば、まだ十分な吟味ができない中ですので断言することはできません。ただ、全体的な株式相場が比較的好需給の中なのでホットな値動きを見せる銘柄も登場する可能性があります。

IPO銘柄は必ずしもIPO後に順調な業績展開を見せるとは限らないことは皆さんもよくご存知かと思います。昨年9月にマザーズ上場のベイカレントコンサルティング(6532)が先般今期の業績を大幅に下方修正し株価が急落したのに続き、昨年6月にマザーズ上場のバーチャレクス・コンサルティング(6193)が今期の業績を下方修正。同様に株価の大幅安を招いています。上場時の甘い業績見通しを構築した経営陣の責任が問われてもおかしくない事例です。ベイカレントの場合はそのことの責任を取って社長が退任したほか、年間32円の配当を上場後初めて実施するなど対応を工夫したことで株価は戻り歩調となっています。バーチャレクスの場合は下方修正の理由が

東京 IPO 特別コラム

その後述されていますが、同時にM&Aを実施し、同時に第三者割当増資を実施するなど投資家に理解を求めべき事案が発表されています。これらの事例を見るにつけIRの重要性を感じています。IPO後の下方修正はあってはならないことですが、その後の対応としてIRを積極化させて幅広い投資家に理解を求める必要性がありそうです。2017年、始まったばかりのIPO市場ですが、業績が良いにしろ悪いにしろきちんと、IPO企業には積極的なIR活動を通じて事業の内容やビジョンを明確に説明しながら投資家を味方につけて発展の道筋を辿ってほしいと願わざるを得ません。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)